

飯野地区の下水道が供用開始となりました

平成 19 年度から工事を行っていた飯野地区の下水道（特定環境保全下水道事業）について、五楽の全域および木崎、上・中・下砥川の一部が 10 月 1 日より供用開始となりました。供用開始面積は、約 8.7 ha（90 世帯）です。今後、平成 21 年度供用開始予定（今年度工事）の木崎、中尾、上・中砥川を始めとして、順次下水道の整備を進めてまいります。

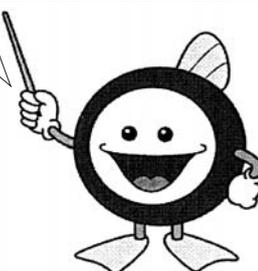


※排水設備工事に対しては助成制度があります。

供用開始から

- 1 年以内の接続…20,000 円
- 2 年以内の接続…15,000 円
- 3 年以内の接続…10,000 円

その他、融資あっせん制度もあります。詳しくは、指定工事店または役場下水道課にお問い合わせください。



下水道マスコットキャラクター スイスイ

問い合わせ先 役場下水道課（浄化センター内） ☎ 2 8 6 - 1 1 3 1

450年の地を巡る

歴史の変遷と地名

303

益城町文化財を訪ねる会は昭和五十三年に設立し、その事業の一つが大正初期に発行された津森福田・木山・広安・飯野の郷土史の復刊です。幻の原本を探し求めて、約十年掛けて復刊しました。最も苦労したのが福田村郷土誌で、中央小で発見したガリ版刷りの文字も薄れ綴りもバラバラの、唯一の原本を苦心惨憺判読し復刻しました。

その遺跡の頂に「東照山西福寺、開基年代不詳、寺跡は平田にあり。僅かに扉一枚を存す。濱田貞雄氏之を蔵む」とあり、平田に寺名のみ残る幻の寺院があった事を示唆しています。民家の屋敷にその寺院跡と見られる石造物があるのを発見しました。①地輪（四角）宝塔（塔身）空風輪（橋の欄干の擬宝珠の形）の凝灰岩（通称は灰石）で高さ一〇マの石塔一基で文字不明②地輪・水輪（西瓜の形）空風輪を寄せ集めた三基の石塔。別の石碑の碑面に「延宝二年（一六七四）癸丑天」で江戸時代。③逆修碑（生前に作った自分の墓）高さ一九七マで横に寝ており、右行に「逆修 田原十右衛門 源

運口」、左行に「于時寛永〇八（一六三一）辛未曆七月吉日」で江戸時代。

これからこの寺は江戸初期までは存在し、戦国時代に盛行した逆修碑が江戸初期までも作られた事が分り（現在益城町最新の逆修碑）、肥後國誌の「平田村二曲手村：ノ小村アリ」との曲手村は、微少地名の井尻・寺向かい（西福寺の正面の意）曲手・堤にと続く幾重にも曲がった旧道が語源です。天神社は曲手村の鎮守で、「寺向かい」の地名は曲手村が西福寺の門前村であった事を物語ります。



旧曲手村「寺向かい」の道路（現在の平田下地区）

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策